

9/1(金)は「防災の日」(8/30(水)~9/5(火)は「防災週間」)です。

今からちょうど100年前の1923年(大正12年)9月1日に「関東大震災」が発生しました。
この大震災を風化させないために制定されたのが、防災の日(防災週間)です。

下表のとおり、近年の大震災と比べても、その被害規模と社会経済的なインパクトは極めて大きかったことが分かります。

	関東大震災	阪神・淡路大震災	東日本大震災
発生年月日	1923年(大正12年)9月1日 土曜日 午前11時58分	1995年(平成7年)1月17日 火曜日 午前5時46分	2011年(平成23年)3月11日 金曜日 午後2時46分
地震規模	マグニチュード M7.9	マグニチュード M7.3	モーメントマグニチュード Mw9.0
直接死・行方不明	約10万5千人 (うち焼死 約9割)	約5,500人 (うち窒息・圧死 約7割)	約1万8千人 (うち溺死 約9割)
災害関連死	-	約900人	約3,800人
全壊・全焼住家	約29万棟	約11万棟	約12万棟
経済被害	約55億円	約9兆6千億円	約16兆9千億円
当時のGDP	約149億円	約522兆円	約497兆円
GDP比	約37%	約2%	約3%
当時の国家予算	約14億円	約73兆円	約92兆円

出典：諸井・武村(2004)『日本地震学会論文集』第4巻第4号、東京市役所(1926)『東京震災録：前編』、一橋大学社会科学統計情報研究センター『長期経済統計データベース』
気象庁、警察庁、消防庁、復興庁、国土庁、内閣府、財務省、兵庫県資料をもとに内閣府防災担当作成

[内閣府ホームページより引用]

私たちが暮らす日本は、世界でも「自然災害が多い国」として有名です。

「自然災害」・・・地震・台風・豪雨・河川の氾濫・津波・土砂崩れ・落雷など

例えば、地震でいうと日本の国土の広さは全世界のたった0.28%しかないのに、全世界で起こったマグニチュード6以上の地震の約20%が日本で発生しています。近年では、震度4以上の地震が毎年40回以上も発生しています。

自然災害大国の日本で暮らすからこそ、日ごろから災害に対する備えは行っておきたいものです。年に一度の防災の日(防災週間)を機に、日ごろの防災対策を見直し、防災・減災の知識や意識をさらに高めましょう！

地震発生時の安全行動3原則

1. 「姿勢を低くする」
2. 「頭や体を守る」
3. 「揺れが収まるまで待つ」

